

令和7年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画		
学校運営方針	<p>下記の教育目標を達成し、社会に貢献できる有為な人材を育成することを目指し、教育活動の一層の充実を図る。</p> <p>(1) 自分の生き方を自己決定できる能力の育成 —進路指導、各種ガイダンスの充実—            (2) 基礎学力の充実 —充実した授業展開と家庭学習の強化—            (3) 強靱な身体と健全な精神の練成 —体育、勤労体験学習等の充実—            (4) 社会性豊かな人間の育成 —生徒会活動・クラブ活動・ボランティア活動等の充実—</p>	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①グローバル(Global×Local)人材の育成を目指し、社会貢献できる力を育成します。            ②基礎学力の定着とともに、総合学科の強みを生かした質の高い能力を育成します。            ③他人を思いやる豊かな人間性を持ち、多様な価値観を尊重する態度を育成します。            ④情報を収集・考察し課題発見するなど、意見を他者に表明する姿勢を育成します。            ⑤持続可能なまち・地域づくりを誇りとし、母校及び郷土を愛する心を育成します。</p>	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①キャリア教育の充実について、「産業社会と人間」を核に教育活動を展開します。            ②協働的で探究的な学びをとおして、生徒の主体性、探究心を育む授業を行います。            ③複数の教科を横断し、主権者教育、人権教育、特別支援教育などに取り組みます。            ④ICT機器を効果的に活用し、データ等の分析・処理能力向上の学習を行います。            ⑤地元企業や行政機関などと連携しつつ、総合的な探究の時間の実習を実施します。</p>	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>～このような生徒を求めています～</p> <p>①国際的な視野を持ち、地域連携の活動を基に、地域に貢献する社会性豊かな生徒            ②学習意欲に溢れており、広い視野を有し、進路希望の実現に向けて努力する生徒            ③生徒会活動、校外活動にバランスのとれた心身の成長に適した活動ができる生徒            ④持続可能な社会の創り手として、主体的に社会の形成に参画する態度を持つ生徒            ⑤何が地域の課題であるかを意識し、試行錯誤しながらその課題解決を目指す生徒</p>	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
<p>成果： いじめや生活などの悩みに関するアンケートを年3回実施し、安全・安心な学習環境を整えることにつながっている。各種学校行事では、関係機関等と連携を図りながら計画通り実施することができた。公開で開催した六華祭（文化祭）では多くの来場者もあり、地域との交流を深めた。3年次の進路指導では、特別編成授業の実施や個別補習及び面接指導を充実させ、全生徒の進路実現につなげることができた。</p> <p>課題： 生徒の校外でのICTの利活用や教職員のICTの利活用に今後も工夫が必要である。進路指導では進路意識を明確化させ、家庭学習を習慣化させることで基礎力を身につけさせる</p>	(1) 魅力ある学校づくり	<p>①生徒の希望、保護者や地域の負託に応え、より一層、魅力ある学校づくりを推進する。            ②生徒及び教職員が健康で安全、安心に過ごせる環境を整える。            ③総合学科の強みを活かし、様々な進路希望を実現するカリキュラムを編成する。</p>
	(2) 学力向上・進路実現	<p>①生き方の自己決定力を高めるキャリア教育を一層充実させる。            ②基礎学力の向上と大学進学への実践力育成を図り、進路第一希望の実現を目指す。</p>
	(3) 地域連携・国際理解	<p>①地域と連携した活動を推進し、地域とともにある学校づくりを目指す。            ②国際的な視野を高める学びを推進する。</p>
	(4) 生徒指導	<p>①人間の尊厳を尊重し、他人を思いやる豊かな人間性を育む。            ②モラルやルールの遵守、責任感の養成を図り規範意識を育成する。            ③様々な事情を抱え特別に支援が必要な生徒に対し、情報の共有化を図り、組織的に個に適した支援を行う。</p>
	(5) 生徒会活動・部活動の充実	<p>①生徒会活動、部活動への積極的な参加を促し、総合的な人間力の育成を図る。            ②バランスのとれた心身の成長に適した活動を推進する。</p>

必要がある。生徒指導では制服の着こなしなどに適宜指導が必要である。また、生徒の自身の健康についての自己管理への指導や感染症予防に対する意識啓発が重要である。		(6) 働き方改革	①限られた時間の中で必要な教育活動を行うため、業務の削減、簡素化、効率化を図る。 ②勤務時間、健康管理を意識した働き方改革を推進する。 ③健康で生き生きとやりがいを持って勤務できる環境を整える。			
重点目標	具体的目標	具体的方策			評価	
(1) 魅力ある学校づくり	① 生徒の希望、保護者や地域の負託に応え、より一層、魅力ある学校づくりを推進する。	教務	学校ホームページを活用し、教育活動の様子を積極的に発信する。	A	A	
		生徒指導	生徒の自主性を活かした企画・運営をめざし、体育祭、六華祭、球技大会などの成功を目指す。	A		
		教務(図書)	図書館オリエンテーションや図書館だより等で、図書館の利用促進を図る。	A		
	② 生徒及び教職員が健康で安全、安心に過ごせる環境を整える。	保健環境		保健調査票や定期健康診断結果、保健室来室状況等を活用し、一人一人の生徒の心身の健康状態を全教職員が共有する。	A	A
				特別支援教育・教育相談委員会等と連携し研修を行い、配慮を要する生徒への対応について教職員の共通認識を図る。	A	
				今日的な健康課題である性教育、薬物乱用防止教育、生活習慣病予防教育を重視し、生徒の健康への関心を高める。	B	
				生徒の健康面から服装指導を行い、自己管理を呼びかける。	B	
				校内の安全点検を実施し、問題の早期発見に努め、適切な処置や安全教育を推進し、生徒の日常及び緊急時の安全の確保を図る。	A	
	③ 総合学科の強みを活かし、様々な進路希望を実現するカリキュラムを編成する。	教育課程委員会		すべての教育活動において「かかわる同和教育」の視点を貫き、教職員全体で生徒理解を深め、課題を抱える生徒には組織的に真摯に関わる。	A	A
				生徒一人一人の自己実現に向け、希望進路の実現と多様な学びを実現するための教育課程を編成する。	B	B
(2) 学力向上・進路実現	① 生き方の自己決定力を高めるキャリア教育を充実させる。	キャリア教育推進委員会	キャリア教育のグランドデザインに沿って、各部との連携を緊密にしながらかリア教育全体を統括する。	B	A	
		進路指導		進路意識啓発講演会や進路別ガイダンス、進学雑誌の配布等、各学年に応じた進路指導計画の内容を充実させ、継続させる。生徒の進路指導室利用を積極的に促し、進路情報の積極的収集と活用にも努めさせる。		B
				学年と連携し、「産業社会と人間」の授業を通して社会について深く考える姿勢を養い、キャリア教育の充実を図り、進路意識に結びつける。		A
				進路指導部として、学年部との連携、学年部と学年部との連絡の援助、学年部と全教職員との連携の橋渡しに努める。保護者の進路実現への理解を進めるために、積極的に学年部と協力する。		A
				各種模擬試験や検定などの受験に積極的に取り組ませ、教科の学習や進路実現への動機付けとする。		A
		1年次	新入生意識啓発講演会や上級学校や職場に関する研修を通して、将来を見据えた進路選択ができるように指導する。 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を利用して、将来の進路について考察し、今学ぶべきことを考えさせる。	A		A

		2年次	進路別の説明会や講演の実施や、オープンキャンパスへの参加、進路の調べ学習などにより、具体的な進路目標とそのための方策を立てさせる指導をする。	A	A	A	
		3年次	進路についての調べ学習等を充実させることにより、生徒本人が主体的に進路を考える能力を育成する。また、進路指導部と連携を密にして、生徒の進学・就職の情報を有効に活用する。	A			
	② 基礎学力の向上と大学進学への実践力育成を図り、進路第一希望の実現を目指す。	教務		「授業をよりよいものにする」という共通認識の下、教科、学年と連携し、生徒の学習意欲を向上させ、家庭学習習慣が定着するよう努める。			B
				学習環境改善や整備を図るために、各部との連絡を密にする。			A
		教務 (ICT)		視聴覚器材を整備し、学校行事等で適切に使用できるようサポートする。また、成績処理を適切に行い、進路達成のサポートを効率的に行う。			A
			1年次	規則正しい生活習慣を身につけさせ、予習・授業・復習のサイクルを習慣化させる。学習の進め方を説明し、授業が一番大切であることを徹底する。			A
			2年次	授業に集中して取り組む姿勢を確立し、学力の定着を図る。家庭学習の時間も増やし、予習復習のリズムを安定させる。			A
3年次	主体的に学ぶ姿勢を確立し、放課後補習等にも取り組むとともに、家庭学習を計画的に行うことにより、各自の目標を達成する学力の向上を図る。	A					
(3) 地域連携・国際理解	① 地域と連携した活動を推進し、地域とともにある学校づくりを目指す。	生徒指導	地域の諸活動への参加を通し、地域貢献とその一員として意識を高める。	A	A	A	
		1年次	総合的な探究の時間での活動を通し、地域の諸課題について理解を深める。	B			
		2年次	総合的な探究の時間での活動を通し、他地域での実践を学び、自らの地域の可能性を探る。	A			
		3年次	これまでの総合的な探究の時間での取組を踏まえ、地域における課題と展望をまとめる。	A			
	② 国際的な視野を高める学びを推進する。	生徒指導 (生徒会)	地域主催の諸活動に参加する機会を活かし、国際的視野と地域理解の涵養を図る。	A	A		
		1年次	総合的な探究の時間での活動の機会を活かし、国際的視野に立った地域理解を促す。	A			
		2年次	総合的な探究の時間での活動の機会を活かし、様々な視点から具体例を学び、自らの諸課題を探る。	A			
		3年次	これまでの総合的な探究の時間での取組を踏まえ、国際的視野での地域の課題と可能性をまとめる。	A			
	(4) 生徒指導	① 人間の尊厳を尊重し、他人を思いやる豊かな人間性を育む。	人権教育、同和教育推進委員会	校内外の人権教育研修に全教職員が積極的に参加するとともに、研修内容を学校内で共有し、職員が人権教育に対する知識や意識を深める。	A		A
				生徒が3年間の高校生活において、計画的に人権教育を受けることができるように、その実践を充実させる。	A		
② モラルやルールの遵守、責任感の養成を図り、規範意識を育成する。		生徒指導	地域の諸活動（「ALL妙高」あいさつ運動など）と連携し、挨拶の習慣化を図る。また、服装・身だしなみの自己管理を呼びかける。	A	A		
			交通講話、バイク実技指導等を通じ安全意識の向上を目指す。	A			
			P T A総会等の機会を通し、保護者にも情報モラルへの理解を求めて意識啓発に努める。	A			
			サイバー犯罪防止講話を実施し、LINEなどSNS利用のモラル向上を目指す。	A			
1年次		挨拶の励行、高校生としてふさわしい身だしなみ、スマートフォンの使い方などを指導し、基本的な生活習慣の確立を図る。	B				

		2年次	生徒会や部活動等の中心的立場であることを自覚し、自ら責任ある行動ができるようにする。また、規範意識を持ち、適正なスマートフォンの使用ができるように指導する。	B		
		3年次	人権教育、同和教育等の実践により人権意識を育て、互いを尊重する協調性やコミュニケーション能力を育成する。	A		
	③様々な事情を抱え特別に支援が必要な生徒に対し、情報の共有化を図り、組織的に個に適した支援を行う。	特別支援・教育相談委員会	特別支援・教育相談委員会を月1回以上開催し、生徒の状況について情報交換を行い、全職員で共有する。	A	B	B
			欠席が多い生徒や課題を抱える生徒について、保護者や関係教職員、特別支援教育コーディネーター、保健室、スクールカウンセラー等との連絡を密にし、指導にあたる。	B		
			特別に支援を必要とする生徒について、特別支援・教育相談委員会で対応を検討し、職員会議で周知する。保護者やスクールカウンセラーと連絡を密にし、適切な対応と支援ができるようにする。	B		
		組織的な対応や支援ができるように、特別支援教育への理解や対応力の向上に関する職員研修会を開催する。	B			
(5) 生徒会・部活動の充実	① 生徒会活動、部活動への積極的な参加を促し、総合的な人間力の育成を図る。	生徒指導	生徒会活動、部活動への積極的な参加を促す。	A	A	A
			新入生対象の部活動紹介を全校生徒に見せることにより、新入生のみならず、学校全体で部活動の活性化を目指す。	A		
	② バランスのとれた心身の成長に適した活動を推進する。	生徒指導	部活動等の年間活動計画に即し、心身の成長に適するバランスのとれた活動を推進する。	A		
(6) 働き方改革	① 限られた時間の中で必要な教育活動を行うため、業務の削減、簡素化、効率化を図る。	教務運営委員会	学校行事を精選するなどし、校務の効率化を進める。また、各部が組織として動けるようにし、業務の分担化を図る。	A	A	A
			② 勤務時間、健康管理を意識した働き方改革を推進する。	運営委員会		
		生徒指導運営委員会	生徒数や活動の実態に応じた部活動数を検討する。	A		
	③ 健康で生き生きとやりがいを持って勤務できる環境を整える。	安全衛生委員会	学校管理医とも連携しながら、勤務時間や職場環境の適正化に努める。	A	A	
成果	<p>生徒の進路実現に向け、学年部・進路指導部・各教科が連携した学習指導に成果が見られた。今後も、生徒一人一人への個別対応を充実させるとともに、進路希望に応じた実践的な取組を継続していく必要がある。</p> <p>健康管理や生徒指導の面では、保健室や学年部を中心とした丁寧な対応が行われた。一方で、不登校等の生徒に対しては、より多様な支援が求められる。</p> <p>服装や身だしなみなど基本的な生活習慣の確立に向け、継続的な指導が必要である。</p> <p>学校行事の見直しや定時退庁日の設定などにより、働き方改革についても一定の成果が見られた。</p>			総合評価		
				A		